

地域公共交通利便増進実施計画の今年度実施内容について

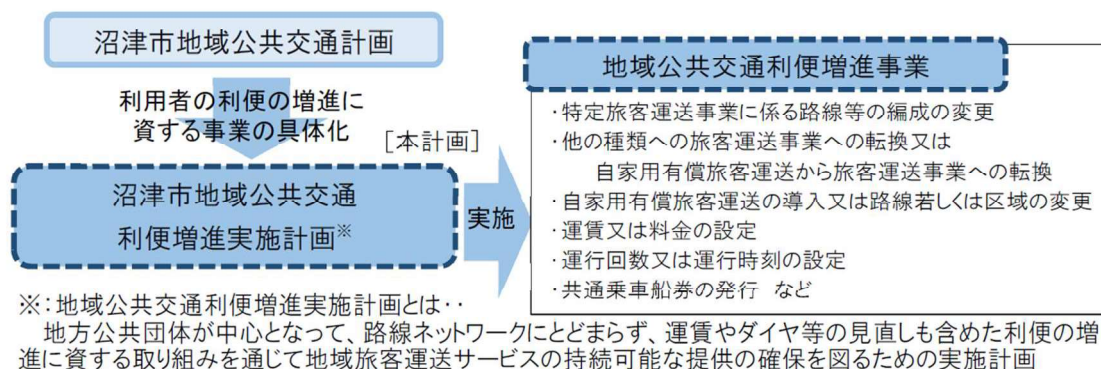
1. 計画の目的

「地域公共交通活性化及び再生に関する法律」を根拠法令とし、沼津市の将来都市像の実現に向けた地域公共交通ネットワークを形成し、持続可能な地域公共交通の確保・維持・改善を図るための総合的な交通計画として、「沼津市地域公共交通計画」を策定しています。

本計画は、沼津市地域公共交通計画に基づき、市内の路線全体を見直すとともに、持続的な移動手段の確保と、利便性向上による利用促進を図るための具体的な事業を定めたもので、本協議会において、今年度の計画内容について報告します。

2. 計画の位置づけ

本計画では、沼津市の総合的な交通計画である「沼津市地域公共交通計画」の実施計画として位置づけます。



3. 計画の枠組み

①計画期間

令和 4 年度（2022 年度）～令和 7 年度（2025 年度）の 4 年間とします。

なお、計画期間中の状況の変化に応じて適宜見直しを図っていきます。

年度 関連計画	短期		中期		長期		R8 年度～ (2026～)
	R2 年度 (2020)	R3 年度 (2021)	R4 年度 (2022)	R5 年度 (2023)	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	
第 2 次沼津市都市計画マスター プラン(平成 29 年 1 月策定)	～令和 18 年度						
沼津市立地適正化計画 (平成 31 年 3 月策定)	～令和 18 年度						
沼津市地域公共交通計画 (令和 2 年 3 月策定、 令和 4 年 2 月改定)	令和2年度～令和7年度						
沼津市地域公共交通利便増進 実施計画	令和 4 年度～令和7年度						

②計画の区域

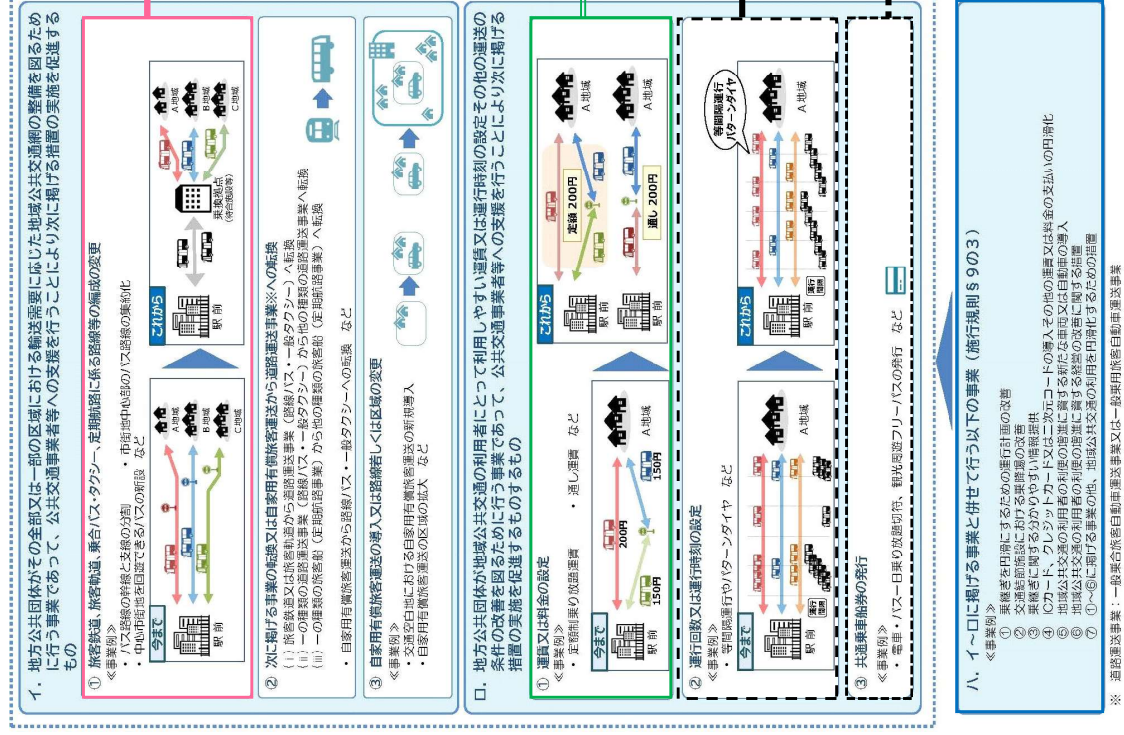
本計画の区域は、沼津市全域とします。

4. 参考資料

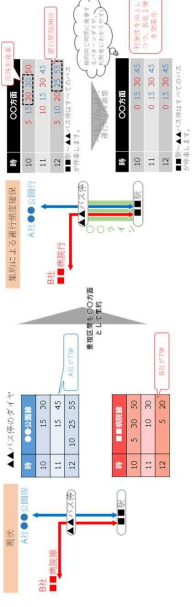
資料 3-1-1 沼津市地域公共交通利便増進実施計画（抜粋版）

I. 公共交通轉形成プロジェクト

本計画において定める利便増進事業は、公共交通の活性化及び再生に関する法律第二十七条の十六「地域公共交通利便増進事業の実施」において、以下の事業が位置付けられています。また、利便増進事業以外にも、「利便増進事業に関連して実施する事業」を位置付けることが出来ます。本計画での施策の事業区分を以下に整理します。

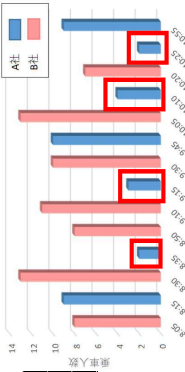
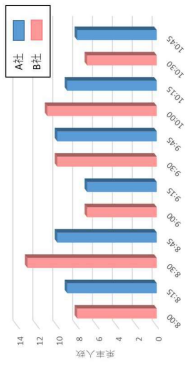


実施事業	対象地域・路線	実施年度	詳細
路線の集約・再編	・都市的居住圏内	R 4	
人口集積地への路線の新設	・都市的居住圏内の交通不便地域	R 4	P22
公共交通軸における運行頻度の確保	・都市的居住圏内	R6・7	P33
Ⅱ. 公共交通セーフティネット構築プロジェクト			
実施事業	対象地域・路線	実施年度	詳細
自主運行バス等の路線再編・集約と運行維持に係るルールづくり	・西部地区 (ニューバスパス片浜駅・原駅、柳沢線、原団地線) ・南部地区 (西浦・戸田方面)	R 4 R 5	P24 P29
多様なニーズに対応したタクシースの活用	・交通不便地域/時間帯	R6・7	P22
Ⅲ. わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト			
実施事業	対象地域・路線	実施年度	詳細
バスターミナル発着のダイヤ調整	・沼津駅を発着する路線	R6・7	P33
運行情報のデータ化と活用	・市内全路線	R 7	
デジタルサイネージの設置	・交通結節点	R 6	P35
利用しやすい運賃体系への見直し	・共通定期券 ・乗継割引	R6・7 R4・5	P31
バス停の環境改善(駐輪場設置、コンベア等との連携、バリアレス縁石活用等)	・市内全路線	R4-7	
バスターミナルの環境改善	・交通結節点	R 5	
Ⅳ. 楽しいおでかけ創出プロジェクト			
実施事業	対象地域・路線	実施年度	詳細
路線図・時刻表の作成	・市内全路線	R4・5	P33
企画乗車券・フリーパス・高齢者バスの販売	・運行距離が長大な路線	R 5	P32
Ⅴ. 沼津駅-沼津港連携プロジェクト			
実施事業	対象地域・路線	実施年度	詳細
デジタルサイネージの設置(沼津港)	・沼津港	R 4	P33
沼津駅-沼津港間の路線バス利用者の確保	・沼津駅-沼津港間	R 6	

実施項目	公共交通軸における運行頻度の確保
実施年度	R 6 年度・7 年度
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	I. 公共交通軸形成プロジェクト I-② ●公共交通軸における運行頻度の確保
対象地域・路線	・都市的居住圏内
目的(ねらい)	・公共交通軸の形成、都市的居住圏内のサービス水準の向上
事業概要	・都市的居住圏内における路線の集約等により、公共交通軸の運行頻度を確保するほか、利用しやすいダイヤに調整し、サービス水準の向上を図ります。
	
実施主体	バス事業者、沼津市

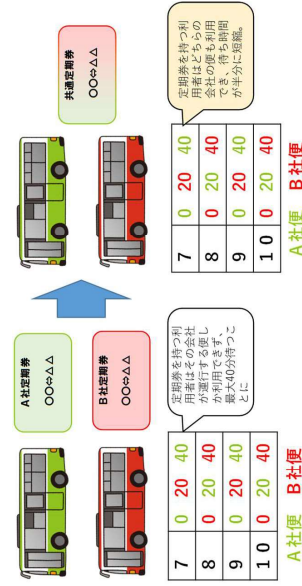
実施項目	自主運行バス等の路線再編・集約と運行維持に係るルールづくり
実施年度	西部地区：R 4 年度、南部地区：R 5 年度
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	II. 公共交通セーフティネット構築プロジェクト II-② ●自主運行バス等の路線再編・集約と運行維持に係るルールづくり
対象地域・路線	・西部地区（ニューバス片浜駅・原駅、柳沢線、原団地線） ・南部地区（西浦・伊豆長岡駅方面）
目的(ねらい)	・路線の再編・集約による運行の効率化、利便性の向上
事業概要	【例：西部地区】 ・ニューバス片浜駅循環線は、便により西回り、東回りと循環方向が変わる点、中田通りと病院通りの経由が異なる点、営業時間内であってももらぼーと沼津を経由しない便があるなど、利用者にわかりづらい点が挙げられます。 ・利用の少ない地域のフィーダー化、ららぽーと沼津利用者にわかりやすい路線への再編、地域住民が利用しやすい路線への再編を図ります。 【例：南部地区】 ・西浦・伊豆長岡駅方面について、全体としての利用者は少ないものの、朝夕に長井崎小中一貫学校、市内高等学校へ通う児童生徒のほか、移動手段を持たない子供や高齢者の方々に利用されており、地域を支える路線となっています。 ・しかし三津以南では、利用者が数が極端に少なく、運行効率が劣っている状況にあります。 ・利用の少ない区間のフィーダー化と結節点での幹線への接続を検討します。

実施項目	多様なニーズに対応したタクシースの活用
実施年度	R 6 年度・R 7 年度
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	II. 公共交通セーフティネット構築プロジェクト II-③ ●多様なニーズに対応したタクシースの活用
対象地域・路線	・交通不便地域
目的(ねらい)	・交通不便地域の解消、地域内交通の充実
事業概要	・交通不便地域を解消するため、乗合デマンドタクシー等、タクシーを活用した新たな旅客運送サービスを検討します。 【例：大岡地区】 ・自治会を実施主体として乗合デマンドタクシーの実証運行を行った大岡地区について、実証運行の結果分析を行い、本格運行に向けた検討を行います。 沼津市内におけるタクシー車両での乗合旅客運行サービス事例 
実施主体	戸田-江梨線「ふじみ go！」 大岡コミタク号（実証運行） タクシー事業者、地元自治会、沼津市

実施項目	バスターミナル発着のダイヤ調整																																		
実施年度	R 6 年度・ 7 年度																																		
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	Ⅲ. わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト Ⅲ-② ●バスターミナル発着のダイヤ調整																																		
対象地域・路線	・ 沼津駅を発着する路線																																		
目的(ねらい)	・ 使いやすさの向上、運行の効率化、収支率の改善																																		
事業概要	・ 沼津駅を発着する同方向のバスダイヤをわかりやすい等間隔運行にするなど利用者にとって使いやすいダイヤに調整を図ります。 【例：西浦・伊豆長岡駅方面】 ・ 沼津駅を発着する路線バスの中で、長大路線となっている西浦・伊豆長岡駅方面について、重複区間のダイヤ調整により利便性を確保しつつ、利用美態に応じた運行便数の削減を行い、路線の維持を図ります。 <table><tr><td>8</td><td>5</td><td>15</td><td>30</td><td>35</td><td>50</td></tr><tr><td>9</td><td>10</td><td>15</td><td>30</td><td>45</td><td></td></tr><tr><td>10</td><td>5</td><td>10</td><td>20</td><td>25</td><td>55</td></tr></table> 運行間隔が最短 5 分、最大 30 分とバラバラ  前の便と運行間隔が短い便では利用が少ない。 運行便数に対して利用者が少なく、経営を圧迫 <table><tr><td>8</td><td>0</td><td>15</td><td>30</td><td>45</td></tr><tr><td>9</td><td>0</td><td>15</td><td>30</td><td>45</td></tr><tr><td>10</td><td>0</td><td>15</td><td>30</td><td>45</td></tr></table> 運行間隔を調整することで減便しつつ、乗客は利用しやすいダイヤに調整  便ごとの乗車人数の偏りを改善 便数の適正化により、収支の改善		8	5	15	30	35	50	9	10	15	30	45		10	5	10	20	25	55	8	0	15	30	45	9	0	15	30	45	10	0	15	30	45
8	5	15	30	35	50																														
9	10	15	30	45																															
10	5	10	20	25	55																														
8	0	15	30	45																															
9	0	15	30	45																															
10	0	15	30	45																															
実施主体	バス事業者、沼津市																																		

実施項目	運行情報のデータ化と活用	
実施年度	R 7 年度	
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	Ⅲ. わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト Ⅲ-⑤ ●運行情報のデータ化と活用	
対象地域・路線	・ 市内全路線	
目的(ねらい)	・ 使いやすさの向上、利用促進	
事業概要	・ 国土交通省が平成 29 年 3 月に策定した「標準的なバス情報フォーマット (GIFS)」に基づきデータを整備し、オープンデータとして公開していくことで、多様な主体によるバス情報の活用を促進し、バスの利用機会の創出を図ります。 ・ バスやタクシ一の待ち時間のストレスを軽減し、利用者の利便性を高めるため、市内を運行するバス・タクシー車両の位置情報の活用を検討します。	
実施主体	バス事業者、タクシー事業者、沼津市	

実施項目	デジタルサイネージの設置	
実施年度	R 6 年度	
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	Ⅲ. わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト Ⅲ-⑥ ●デジタルサイネージの設置	
対象地域・路線	・ 交通結節点	
目的(ねらい)	・ 使いやすさの向上	
事業概要	・ 市民や観光客など多くの利用者が集まる交通結節点においてデジタルサイネージを設置し、運行情報の提供を行います。	
実施主体	バス事業者、沼津市	

実施項目	利用しやすい運賃体系への見直し																									
実施年度	共通定期券：R 6 年度・R 7 年度、乗継割引：R 4 年度・R 5 年度																									
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	Ⅲ. わかりにくさ使いにくさ解消プロジェクト																									
対象地域・路線	Ⅲ-⑧ ●利用しやすい運賃体系への見直し ・複数の事業者が重複する路線 ・乗継が必要な路線 ・都市的居住圏内																									
目的(ねらい)	・定期券利用者の利便性向上、利用者数の増加 ・乗継による運賃増額の改善																									
事業概要	【例：共通定期券化】 ・複数の事業者が同じ経路を運行している、または経由する停留所が同じ場合であっても、定期券については事業者毎に発行されており、同じ路線を運行する他事業者のバスを利用できないなど、利用者に対する利便性に課題がある路線、区間があります。 ・利用者の停留所での待ち時間の削減や、特定の便への集中、停留所周辺の混雑の解消などを目指し、複数の事業者で利用可能な共通定期券化を検討します。  共通定期券 OOsAA 定期券を持つ利用者はどちらの会社でも利用でき、乗大40分待つことに 定期券を持つ利用者はどちらの会社でも利用でき、乗大40分待つことに <table><tr><th></th><th>7</th><th>0</th><th>20</th><th>40</th></tr><tr><td>A社便</td><td>7</td><td>0</td><td>20</td><td>40</td></tr><tr><td>B社便</td><td>8</td><td>0</td><td>20</td><td>40</td></tr><tr><td>A社便</td><td>9</td><td>0</td><td>20</td><td>40</td></tr><tr><td>B社便</td><td>10</td><td>0</td><td>20</td><td>40</td></tr></table> A社便 B社便 A社便 B社便 【例：乗継割引】 ・フィーダー化により、路線が分割されることで乗継が必要な路線について、乗継割引を検討します。		7	0	20	40	A社便	7	0	20	40	B社便	8	0	20	40	A社便	9	0	20	40	B社便	10	0	20	40
	7	0	20	40																						
A社便	7	0	20	40																						
B社便	8	0	20	40																						
A社便	9	0	20	40																						
B社便	10	0	20	40																						
実施主体	バス事業者、タクシー事業者、沼津市																									

実施項目	バス停の環境改善（駐輪場設置、コンビニ等との連携、バリアレス緑石活用等）
実施年度	R 4 年度ーR 7 年度
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	Ⅲ. わかりにくい使いにくさ解消プロジェクト
対象地域・路線	Ⅲ-⑨ ●バス停の環境改善（駐輪場設置、コンビニ等との連携） ・市内全路線
目的(ねらい)	・使いやすさの向上
事業概要	・上屋が無い、椅子が設置されていないなど、待合環境の悪いバス停について、近隣の商業施設や公共施設との連携も考慮しながら、バス待ち環境の改善に努めます。 ・バス停から遠方に居住している方が自転車でアクセスできるように、バス停周辺施設と連携し駐輪場の確保に努め、サイクル&バスライドを促進します。 ・道路及び施設改修に伴うバス停設置の際には、正着性の高いバリアレス緑石等の導入について検討します。
実施主体	バス事業者、沼津市

実施項目	バスターミナルの環境改善
実施年度	R 5 年度
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	Ⅲ. わかりにくい使いにくさ解消プロジェクト
対象地域・路線	Ⅲ-⑩ ●バスターミナルの環境改善 ・交通結節点
目的(ねらい)	・使いやすさの向上
事業概要	・バスターミナルの整備に伴い、バス・タクシー乗り場に案内看板、上屋、椅子を設置するなど、利用者にとってわかりやすく使いやすい環境に改善します。 ・バスベイは、正着性を高め、利用者の乗降をしやすくするため、バリアレス緑石の導入や切り込み形状の工夫を検討します。
実施主体	沼津市、静岡県

実施項目	路線図・時刻表の作成
実施年度	R 4 年度・R 5 年度
対応する地域公共交通計画のプロジェクト	Ⅳ. 楽しいおでかけ創出プロジェクト
対象地域・路線	Ⅳ-① ●路線図・時刻表の作成 ・市内全路線
目的(ねらい)	・使いやすさの向上、利用促進
事業概要	・市民及び観光客にとってわかりやすく機能的な公共交通マップや、オープンデータを活用した時刻表を作成します。
実施主体	鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者、沼津市

I - ④乗務員確保対策

乗務員確保対策の取組について

1. 概要

広報ぬまづやバス路線図、時刻表、沼津独自の就労支援サイト「ぬま job」への掲載等により市内を運行するバス・タクシー事業者の乗務員募集について周知を図る。

本市では、就労支援事業として市内企業と求職者のマッチングを図る合同就職面接会等を開催しているほか、静岡労働局と雇用対策協定を締結し、関係機関と連携しながら様々な雇用対策を実施している。また、首都圏から人を呼び込み、定住人口の増加を図るため、本市で可能な地方都市暮らし及び田舎暮らしを総称した「ぬまづ暮らし」の魅力を発信し、移住を希望する方々のサポートをしている。

2. 本市の雇用対策事業と移住・定住の促進策等

【雇用対策】

- 沼津しごと応援サイト「ぬま job」の運営
- キャリアデザイン相談センターの設置
- 若年者等求職者と市内企業との合同就職面接会「ぬま job フェア」の開催

【移住・定住促進】

- 移住・就業支援…東京圏からの移住者に最大 100 万円を補助
- 移住者支援交通費補助…移住の際に要する交通費について最大 10 万円を補助

3. 令和 6 年度の実施内容

- ①令和 6 年 6 月 30 日（日）事業者主催「3 社合同バス運転体験会&会社説明会」参加者：41 名
- ②令和 6 年 9 月 14 日（土）市主催「ぬまづ暮らし何でも相談会」来場者：27 組 35 名
- ③令和 7 年 1 月 19 日（日）市主催「ぬま job フェア」来場者：135 名



4. 令和 7 年度の予定

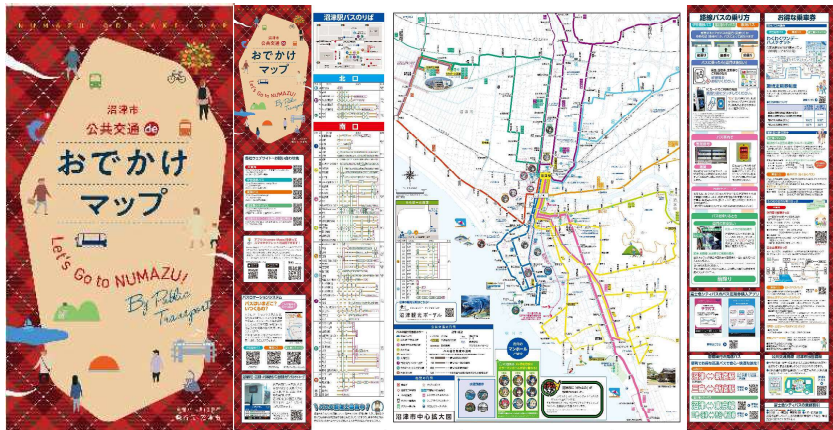
- ①令和 7 年 7 月 13 日（日）市主催「ぬまづ暮らしなんでも相談会」バス 3 社が参加予定
- ②令和 8 年 2 月 22 日（日）市主催「ぬま job フェア」を開催予定

公共交通利用促進の取り組みについて

1. おでかけマップの作成について

令和6年度末に30,000部を作成し、転入者、市内外の観光施設、バス営業所等の関係施設にて配布。
今年度も路線情報等を見直し、令和8年度に向け作成予定。

令和7年4月 リニューアル版



2. モビリティ・マネジメントについて

(1) 出前講座・イベント出展

過度な自動車社会から公共交通や自転車等を賢く利用する方向へ自発的に転換を促す取組として、本市では、市の出前講座等を活用し、モビリティ・マネジメント教育を実施している。昨年度は、主に小学2年生を対象に市内5校(412人)を対象に出前講座を実施した。また、J3アスクラロ沼津ホームゲームのイベントブースに出展し、啓発活動を行った。



【今年度の予定】

- ・これまでの小学生向けの出前講座に加え、大人向け講座として、バスツアー型のバス教室を実施予定
- ・J3アスクラロ沼津のホームゲーム(8月30日(土))や週末の沼津等のイベント時に啓発活動を実施予定
- ・講座やイベント後にアンケート調査を実施し、MMの効果検証も予定。
- ・講座受講者やイベント参加者に向けて、バス利用啓発用のノベルティグッズを作成予定。

「令和6年度小学生講座」

(2) 高齢者向けMMについて

運転免許証返納前に車に加えて公共交通機関も利用するという行動変容を図ることを目的とし、高齢者用「今からはじめる！おでかけの準備運動のススメ」パンフレットを作成、配布する。

(国土交通省北海道開発局が発行するものを沼津市 ver. に修正して発行)

【配布方法】

- ① 敬老行事（11月開催、希望者が参加するもの）
- ② 高齢者向け出前講座で配布
- ③ 警察署にて免許証更新者や70歳講習の参加者へ配布



(3) バスの日イベントについて（今後継続的に実施するものとして）

令和6年度バスの日（9/20）にちなんだ実施した、バスのなぞ解きのようなイベントを今後も継続して行った方が良いという意見が出たため提案するもの。

【市からの提案】

イベント	「車庫見学会」の実施 小学生向けバス教室の実施方法を見直したことにより、小学生が車庫見学や洗車体験をする機会がなくなったため、バスの日イベントとして、希望者に車庫見学会を実施する
対象者	どなたでも
実施事業者	現在バス教室の依頼をしている東海バス、富士急シティバスでそれぞれ実施
開催方法	①沼津駅前集合（市の職員待機） ②駅から路線バスに乗って車庫まで行く この時市の職員も同乗し、バスの乗り方を説明。運賃も払ってもらう（参加費として運賃を明記） ③車庫で車庫見学、洗車体験 ④路線バスに乗って沼津駅で解散

自動運転実証運行について

1. 背景と目的

観光地である沼津港は、自家用車での来場が多く、沼津駅のある中心市街地との回遊が見られず、にぎわいの波及が長年の課題である。近年は、バスのドライバー不足も顕著となり、路線を維持したくても人手不足により、減便や路線の廃止が余儀なくされる課題が存在する。

これら課題解決のため、沼津駅ー沼津港間という中心市街地のメインストリートを、自動運転車両が走行することで本ルートを通る街のにぎわいの軸として位置づけ、ドライバー不足の解消だけでなく、本事業を契機に街全体の活性化につなげる。

2. 令和6年度 走行空間実証実験の概要

道路上へ自動運転車両の①走行レーンや②自動運転車両アイコンを標示することにより、一般車両への周知、運転マナーの遵守を意識させ、安全・円滑な運行に寄与する。

【参画企業・団体】



【凡 例】

- 運行ルート
- ①走行レーン標示
- ②自動運転車両アイコン標示

①走行レーン標示
グリーンカラーの幅 45cm の破線を整備

②自動運転車両アイコン標示
交差点付近に上下線計 8 箇所整備

実施箇所	片道2.2km(沼津港～沼津駅)
運行計画	所要時間10分 往復5便/日 運行曜日:金・土・日
実験期間	調律走行:令和6年11月21日～12月5日 関係者試乗:12月6日,11日AM 一般運行(無料):12月7日,8日,13日～15日(5日間)
交通量、制限速度	交通量:3,948台/12h、40km/h
自動運転レベル	レベル2

3. 令和6年度実証のアンケート結果

関係者 95 名、一般乗車延べ 597 名が乗車し、乗車時の感想や本市にとって自動運転が必要かどうか等についてアンケート調査を実施した。

自動運転バス非利用者へのアンケート調査をマックスバリュ、田子重、沼津みなと新鮮館で実施し、合計 318 名の回答を得た。

(1) 利用者アンケート

○乗車した感想

・一般的なバス車両と比較して「危険を感じた」と回答した人は 1 割未満、乗り心地が「良い」「やや良い」「ふつう」と回答した人が 90%でした。危険を感じた具体的な場面としては、「停止時」や「交差点右左折時」、乗り心地が悪い理由として「急停止」が多く今後の技術改良が必要と考えられる。

・また、走行スピードについては「ちょうど良い」という回答が 82%でした。

○沼津市にとっての自動運転バスの必要性

- ・今回の自動運転バスが沼津市にとって必要だと「とても思う」「やや思う」と回答した人の割合の合計が 97%と高い結果となった。
- ・必要だと思う理由としては「運転手が不足しているから」が最も多く、思わない理由としては「効果がよくわからないから」が最も多い結果となった。

(2) 非利用者アンケート

○路面標示を見て取った行動

- ・実際に路面標示を見た人は約 3 割存在し、見た人が実際に取った行動としては、「運転するルートを変えた」「運転するレーンを変えた」といった行動を変えた人が約 18%存在したものの、「特に何も変わらず通常通り行動した」人が 77%となり、多数を占める結果となった。

○路面標示を見たと仮定して取るであろう行動

- ・「運転するルートを変える」「運転するレーンを変える」といった行動を変えると回答した人が 68%存在した。
- ・路上駐車をしようとする際に路面標示を見て取るであろう行動について、「路上駐車をやめる」が 68%である一方、「特に何も変わらず路上駐車をする」と回答した人が約 8%存在した。

○沼津市にとっての自動運転バスの必要性

- ・自動運転バスが沼津市にとって必要だと「とても思う」「やや思う」と回答した人の割合の合計が 84%であり、非利用者であるとはいえ沼津市にとって必要であると考えてる人が多いことがわかった。
- ・必要だと思う理由としては「運転手が不足しているから」が最も多く、必要だと思わない理由としては「効果がよくわからないから」が最も多く、利用者と同じ結果となった。

4. 令和 7 年度実証計画

令和 6 年度の実証運行では、手動介入は 7 日間で計 289 回発生し、路上駐車の回避が最も多く全体の約 4 割を占め、自動走行において大きな障壁となっていることが分かりました。また、信号の誤認識による手動介入も発生しました。今年度は、これらの要因を解消していくための検証実施を計画します。

計画概要

- ・信号機との連携（手動介入の減少効果）
 - ・遠隔監視システムの設置
 - ・商店街等の路上駐車を必要とする車両へのヒアリング調査
 - ・観光客の来訪行動に関する調査
- ⇒明確な技術課題を検証しつつ、将来に向けて社会受容性を高める。



V-⑤沼津駅-沼津港間の路線バス利用者の確保

路線バス利用者の確保（交通 DX）について

1. 課題

本市随一の観光地である沼津港は、年間 164 万人の来訪があるが、自家用車での来場が多く、慢性的な渋滞が発生している。沼津駅のある中心市街地との回遊が見られず、にぎわいの波及が長年の課題である。原因の一因として、来訪者への情報提供の不足が考えられる。

2. 解決への取組方針

沼津市内の行きたい場所への移動情報を統一的なユーザーインターフェイスで市民や観光などの来訪者にもわかりやすく提供する。

令和 6 年度は、IHI 運搬機械（株）の保有するモビリティプラットフォームに市内駐車場の満空情報を取得し、観光 MasS アプリと連携するシステムを構築した。（株）ジョルダンの提供する乗換案内アプリを活用し「沼津市モード」を実装した。

< R 6 ジョルダン乗換案内アプリ「沼津市モード」 >

(1) 鉄道・バス経路アプリへ観光情報を一元化

- ・観光情報・・・・・・・・・・ 31 ヶ所
 - ・飲食店情報・・・・・・・・・・ 121 ヶ所
 - ・宿泊施設・・・・・・・・・・ 19 ヶ所
 - ・シェアサイクルステーション・・ 23 ヶ所
 - ・沼津観光ポータルサイト他・・ 5 件
- （Web サイトへのリンク機能）

(2) 市内駐車場の満空情報

- ・沼津駅周辺から沼津港周辺・・・・ 26 ヶ所
- （「空車」「混雑」「満車」状態を表示）



● データ収集・分析結果（令和 7 年 2 月 4 日～3 月 31 日：56 日間）

- ・期間時点の継続利用者数：4,702 人 （1 日あたり 84 人）
- ・スポット別経路検索

沼津港関連：26%、中心市街地（沼津駅周辺）：26%、その他エリア：48%

沼津港と中心市街地の経路検索が拮抗しており、その他エリアも香貫山、らららサンビーチ、戸田など広範囲で検索されていた。（シェアサイクルを含む経路案内）

Web アンケートによる意見

- ・情報量を増やしてほしい。沼津駅、沼津港周辺の駐車場情報が増強されることを期待する。
- ・津波避難箇所などの防災情報の掲載とそのルート検索
- ・沼津駅の近くで飲食店を探していたので、地図から探せるのが良かった。
- ・市内のスポーツイベント、お祭りなどの情報があると良い。
- ・車でのルート案内が欲しい

など

3. 令和 7 年度の取組

令和 7 年度は、新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用し、（株）ジョルダンの提供する乗換案内アプリ「沼津市モード」の継続、通年の運用により新規ユーザーの獲得を目指す。合わせて、移住定住イベント、高齢者向け MM など市が実施する企画イベントを機会として、市民向けにも情報発信を行う。